

## 園名

品川区立第一日野幼稚園

## テーマ

自然・生き物



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

## テーマ設定の理由

本園は、隣接している小学校と広大な芝生やビオトープを共有していることで虫探しなどに興味をもつ幼児が多い。また、植物の栽培、ウサギの飼育など、日頃から身近な自然や生き物に触れる中で、様々な気づきを伝え合う姿が見られる。園の特色を生かしながら、活動を深めていくことにより、幼児の好奇心・探究心をより育むことにつながると考えた。

## 活動スケジュール

### ○自然って面白い！/いろいろな栽培方法を知ろう。

- ・苗から野菜を育てよう（トマト・きゅうり・ピーマン・なす・おくらなど）
- ・種を植えてみよう（ヒマワリ・大根など）
- ・いろいろな生き物見付けたよ（アオムシ・チョウ・カミキリムシ・トンボなど）

### ○不思議だな/どうしてだろう？

- ・育ち方・育て方の違いに気付く（球根栽培、袋栽培・畑栽培の比較）
- ・葉っぱってどうなってるの？（身近な落ち葉・様々な自然物の観察）
- ・いろいろなものを観察しよう（自分たちの身の回りにあるものの観察）
- ・根っこが出てるよ！（ヒヤシンスの水耕栽培）

### ○もっと知りたい！！

- ・季節に合った自然現象に触れてみよう（氷できるかな？雪って冷たいね）
- ・どうして違うの？（栽培物の成長を友達と比較する）

## 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

### ○生き物の食草となる草花や遊びで使用する植物

（パンジー、マリーゴールドなどの花、柑橘の木、ハーブなど）

### ○自分たちで栽培するために必要なもの

（赤玉、培養土、肥料、ペットボトルを使用したミニじょうろ、袋栽培用の袋など）

### ○友達と気付いたことを共有するための環境の構成

- ・気付いたことを調べたり記録したりできる教材や用具（図鑑、顕微鏡、記録写真用のカメラ、プロジェクター）
- ・気付いたことを保育室に掲示する/学級で伝え合う機会を作る

## 活動の内容

アオムシの飼育を行い、羽化の様子を撮影し学級で共有したり、カブトムシの飼育では、卵が幼虫になる過程を観察したりした。様々な植物を取り入れて色水遊びをしたことをきっかけに、様々な形や色の葉に興味をもち、集めたり、比べたりすることを楽しんだ。顕微鏡を用意したことで、葉などの自然物だけでなく、折り紙や積み木など身近なものを探索し、違いに気付いたり、気付いたことを友達と伝え合ったりする姿が増えていった。また、幼児が使用できる記録写真用カメラを活用した自然物の撮影を通して、些細な変化を感じ取る様子も見られた。雪が降った翌日には、自分たちで顕微鏡を用意するなど、気付いたことや不思議に思ったことを「もっと知りたい」という思いからより深く考えたり、共有したりしていた。1年を通して、様々な植物を栽培したり、生き物に触れたりしながら探究活動を進めてきた。

## 活動の様子



## 活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

- アオムシが成長するまでに起こる変化を観察する中で、「サナギから血が出るのはなぜだろう」と不思議に思ったり、そのことを調べたりし、分かったことを伝え合う姿が見られた。
- ヒヤシンスやスイセンの球根から芽が出てきたことに気付いた幼児が、記録用カメラで撮影し、ボードに掲示したことで、周囲の幼児が自分の栽培物の成長により関心を寄せる姿につながった。
- 活動を進めていく中で、「顕微鏡持ってくるね」「どう見える？」などと自分たちで用具を準備し、扱いながら、予想する、調べる、気付いたことを伝え合うなど、興味や関心が深まる姿が見られた。

## 振り返りによって得た保育者の気づき

- 幼児が気付いたことや感じたことを受け止め、さらに興味や関心が深まっていくように必要な用具を用意したり、必要な言葉を掛けたりすることが必要だと感じた。
- 一人一人が考えたことを友達と共有する場や状況を作ることによって、他児の「なぜだろう」「私もやってみたい」につながっていく。個と集団のバランスを捉えていくことがより興味や関心の深まりにつながるのではないかと感じた。
- 初めて扱う用具の使い方を丁寧に知らせていくことで、自分たちで動き出す姿につながる。

## 園名

品川区立第一日野幼稚園

## テーマ

表現



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

## テーマ設定の理由

本園の園児は、日常的に、描く・作る・動く・演じる・演奏するなど、様々な表現に触れ、遊びの中に取り入れながら楽しんでいる。様々な表現に触れながら、表現方法を知ったり考えたり工夫したりする中で、幼児自身が興味や関心をもち探究を進めることにより、さらに自ら自己を豊かに表現する姿につながっていくようにするためテーマを設定した。

## 活動スケジュール

- 楽しいな、嬉しいな、きれいだな、気持ちいいな…様々な感性を育もう！
- 感じたことや考えたことを様々な方法で表現しよう！
- 動きや言葉などで、豊かに表現して遊ぶ楽しさを味わおう！
- 試したり工夫したり、友達と一緒に考えたりしながら表現しよう！

- ・様々な表現の仕方を知り、自分なりに動きながら遊びを楽しもう
- ・自分なりに体をたくさん動かして表現しよう
- ・作ったり描いたりして遊ぶことを楽しもう
- ・いろいろな素材や材料に親しみながら遊ぼう
- ・遊びに必要なものを様々な材料や用具を使用して表現しよう
- ・楽器に触れたり使って遊んだりしよう
- ・音楽やリズムに合わせて様々な表現遊びを楽しもう
- ・経験してきたことを取り入れながら、考えたり工夫したりして遊ぼう
- ・感じたことや考えたことに相応しい表現の仕方を考えてみよう

## 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・遊びに必要なものを作ったり身に付けて遊んだりできる材料や遊具の用意
- ・幼児自身が選んだり持ち出したりしながら使用できるような遊具の提示（製作材料、用具、楽器、身に付けられるもの など）
- ・より工夫して作ったり描いたりすることができるような素材や材料
- ・音楽を聴いたりリズムや掛け声に合わせてたりしながら、自分なりに伸び伸びと動くことを楽しめるような、遊びの提示や機会
- ・季節や時期、幼児の実態に応じた歌の提示や音楽で表現する機会
- ・自分たちで表現方法を決めたり考えたりする時間の保障
- ・友達のしていることや考えたことに触れることができる環境の構成
- ・友達と一緒に考えたり協力したりできるよう、大きさや数に配慮し、意図的に準備した材料や用具
- ・本物に触れたり自分たちがしたことを振り返ったりするための視聴覚教材

## 活動の内容【製作遊びで、試したり工夫したりしながら自分なりの表現を楽しむ姿に視点を当てて】

4歳児は、身近にある素材や材料・用具などを使用しながら、自分なりに「作ってみたい」と興味をもったものについて、教師と一緒に作ったり、友達のものをも真似たりしながら、製作遊びを十分に楽しんだ。また、教師が提示する製作遊びの中で、様々な材料に触れたり製作の仕方を知ったりする経験を重ねていくことで、作りたいものに相応しい材料や用具を自分で考えたり、選んで使用したりなど、自分なりに工夫し、楽しみながら自分の表現したいものを作って遊ぶ姿が見られた。

5歳児は、遊びに必要なものを考え、細かいところまでこだわって作ったり、友達と共通にイメージしたものを形にするために、相談したり力を合わせたりしながら協同製作をしたりすることを楽しみ、考えたり試したり工夫したりしながら様々に表現する楽しさを繰り返し経験してきた。

## 活動の様子【5歳児：雛人形作りの様子から】

『雛人形作り』においては、教師が、映像を用いて雛人形職人が実際に人形を製作している様子を見る機会を作った。また、製作材料は、より本物らしく製作できるように考慮し、紙粘土や着物の生地や布などを提示した。そのことにより、幼児は、自分の作りたい雛人形についてイメージが明確になったり、雛人形作りへの興味を深めたりする様子が見られ、自ら意欲的に取り組む姿が見られた。

また、一緒に作っている友達の人形を見て自分の人形と違うところや同じところに気付き、見せ合ったり、感じたことを伝えたり、作り方を教え合ったりなど、楽しさを共有しながら、友達のしていることを取り入れようとする様子も見られた。





## 活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

- 職人が実際に人形を製作している映像を見ながら、「すごい」「こうやって作るの？」などと話し、興味を深めている様子が見られた。
- 「早く作ってみたい！」と、次々と意欲的に活動に参加する姿が見られ、材料をじっくりと選んだり、実際の雛人形を繰り返し見に行ったりしていた。
- 実際の人形と自分の製作している人形とを見比べたり、『顔のおうとつ』や『耳』など、細かいところをどのようにすれば表現できるのかをじっくりと考えたり、『つるつるのお肌になりたい』と指に水を付けて紙粘土を擦ったりなど、自分のイメージしたものを実現できるよう、細かいところまでこだわり、夢中になって取り組む姿が見られた。
- 教師は、技法を丁寧に知らせるとともに、幼児が工夫しているところやこだわりながら製作している部分について、一人一人に応じた言葉を丁寧に掛けた。
- 友達がしていることや作っているものに気が付けるように言葉に出して伝えたり、友達の工夫したところに気が付いて言葉を掛けている姿を認めたりしていくようにした。

## 振り返りによって得た保育者の気づき

- 様々な遊具や用具、材料に触れる経験を重ねる中で、幼児自身が特性に応じた扱い方を知り、遊びの中で取り入れていくことができる。
- 幼児自身が表現方法を選択したり、工夫したりするための手立てを保育者が多く知っていることが大切である。
- ねらいや経験してほしい内容に応じて、遊びや材料、用具、遊具などを提示したり変化させたりしていくことが重要だと感じた。
- 映像や写真、本物の人形など、実際に見たり触れたりする機会を作っていくことで、幼児の興味や関心はより深まっていくと感じた。
- 幼児が工夫しているところやこだわっている部分について丁寧に捉え、一人一人に応じた言葉を掛けていくことで、幼児が夢中になって遊び、より工夫したり次への意欲につながったりしていく。
- 友達がしていることに気が付けるように意図的に言葉に出したり、友達の工夫したところに気が付いて言葉を掛けている姿を認めたりしていくことで、友達の考えやしていることに気付いて自分でも取り入れてみるなど、互いに、より興味や関心を深めながら活動しようとする姿につながっていく。